明治四十三年一月

御親翰拝読
如示伊東氏より之覚
兄の御心をこれぞ思はれ
一ゑ田同人ゝ余代ふ候へど
かりそめにも見とは久しの
ことあれば慶しきに一人
の御化もいまし早稲田
文学のはなしものは
ずおかしなことにすらめ
りよ候ならいつは早速
申し余おびにつけれまれ
ど目下出版の取扱いゝる
よ経るの一ニすなわ無し
帷まがふ御断り申上げる
き候ずれは離れこの中後ず一
第御様御尊顔ふつまらぬ
はがきにて伊田にけば其のかしに
お目にかかり来るら
右追而もあし候の訊取
御気遣候

廿日
竹馬兄
少杉
其宛 侍史